

# 抗菌性物質の適正使用を!

## ～ 耐性菌の発生防止 ～

動物医薬品の畜産物の残留及び動物用医薬品の使用に起因する薬剤耐性菌の発現が重大な関心事になっており、新聞やテレビで取り上げられています。

現在、抗生物質・合成抗菌剤は人の医療以外に畜産、水産においても大量に使用され、飼料に、成長促進剤として治療量に比べ極めて少量添加されてきました。このような使い方は、細菌が薬剤耐性を得るのに最も条件の良い使い方です。

飼料の中に全く薬の入らないものを使用し、又、治療薬もできるだけ使用しないようにすれば、農場での薬剤耐性菌の出現率は、飛躍的に減少するはずですし、絶対に食肉中に薬物が残ることはありません。

安全で安価な畜産物を生産し、安定的な畜産経営を維持するためには、病気の発生時や、集団化による疾病予防に抗菌性物質の使用は不可欠です。投与にあたり、用量・用法を守り使用する事が重要です。

### 抗菌性物質の利用

医薬品(人)  
約 520 トン  
1998

動物用医薬品  
1,060 トン  
牛： 86 トン( 8.1 %)  
豚： 570 トン(53.9 %)  
鶏： 167 トン(15.8 %)  
魚： 227 トン(21.5 %)

飼料添加物  
230 トン

(純末ト、2001 年度)

H15.動物薬事監視事務打ち合せ会議資料

H14 年度検出事例(国内、使用規制省令違反)

- 豚 肉：抗生物質(オキシテトラサイクリン)検出、原因は使用禁止期間中使用  
(出荷間際に使用)
- ヒラメ：合成抗菌剤(オキシリン酸)検出、原因は使用対象動物以外に使用  
(マダイの餌使用)
- ア ヲ：抗生物質(β-ラクタム系)検出、原因は使用禁止期間中使用  
の3検体でした。

抗生物質や合成抗菌剤の添加された飼料は使用期間・方法を必ず守ってください

起立不能、歩行異常、神経症状を示す牛を発見した場合には、家畜保健衛生所までご連絡ください。

飛騨家畜保健衛生所  
高山市上岡本町 7 - 468  
0577 - 33 - 1111 Fax 32 - 9019  
E-mail c24508@pref.gifu.lg.jp

